



平成23年3月1日

耳かき中の事故に気をつけよう！
～3月3日は耳の日～

東京消防庁管内では、平成18年から平成22年までの5年間に、耳かきをして
いた際などに387人が受傷し救急搬送されています。

3月3日の耳の日を前に、当庁の救急事故データを元に、耳かき中の事故
に対する注意を呼びかけています。

- 1 年齢別では、0～5歳の年齢層が155人と最も多く、6～12歳が56人で、これらの年齢層で、約55%を占めています。
- 2 受傷要因別では、「奥に入れすぎ出血等」が最も多く、全体の約41%を占めており、次いで「人や物（動物を含む。）にあたった」が約25%となっています。
- 3 「奥に入れすぎ出血等」では、「耳の奥を突いた」（約41%）ことで多く発生しており、この要因では0～5歳の乳幼児（約42%）が、自分で耳の奥を突いた（約71%）ことにより事故が起きています。
- 4 「人や物（動物を含む。）にあたった」では、自分が動くなどして「人の身体とぶつかった」（約43%）や、「子供がぶつかってきた」（約38%）ことにより受傷しています。30～39歳の年齢層では、「子供がぶつかってきた」（約71%）で多く発生しています。
- 5 多くは軽症ですが、入院を要するようなかげも発生しています。

けがをしたとき、急病のときに・・・。

「病院へ行った方がいいのかな。」、「救急車を呼んだ方がいいのかな。」

迷ったときには「東京消防庁救急相談センター（#7119）」へ相談して
ください。

詳細は別添え資料をご覧ください。

東京消防庁では、今後も同様の救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民の安全確保に努めてまいります。

問合せ先

東京消防庁（代） 電話 3212 - 2111
生活安全課生活安全係 内線 4206
広報課報道係 内線 2345～2349

【耳かきにかかわる救急事故の発生状況】

東京消防庁管内¹では、平成18年から平成22年²までの5年間に耳かきをしていて受傷した事故により、387人が救急搬送されています。

救急事故の発生状況は次のとおりです。

1 年別救急搬送人員

耳かき中の事故による救急搬送人員は、減少傾向にあるものの、年平均では約7件発生しています（図1）。

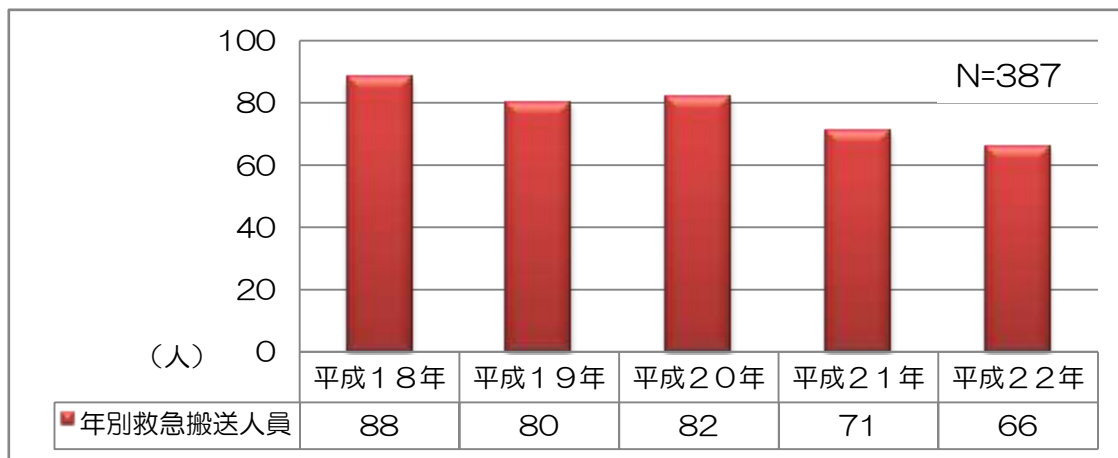


図1 年別救急搬送人員

2 年齢層別救急搬送人員

年齢層別救急搬送人員をみると、0～5歳の乳幼児が155件で、他の年齢層に比べて突出して多くなっています。次いで6～12歳の学童、20歳代から30歳代の乳幼児や小学生等の子供の保護者にあたる世代に多く発生しています。

最も多い0～5歳では、1歳が36.1%と最も多く、次いで2歳、3歳が続いています（図2）。

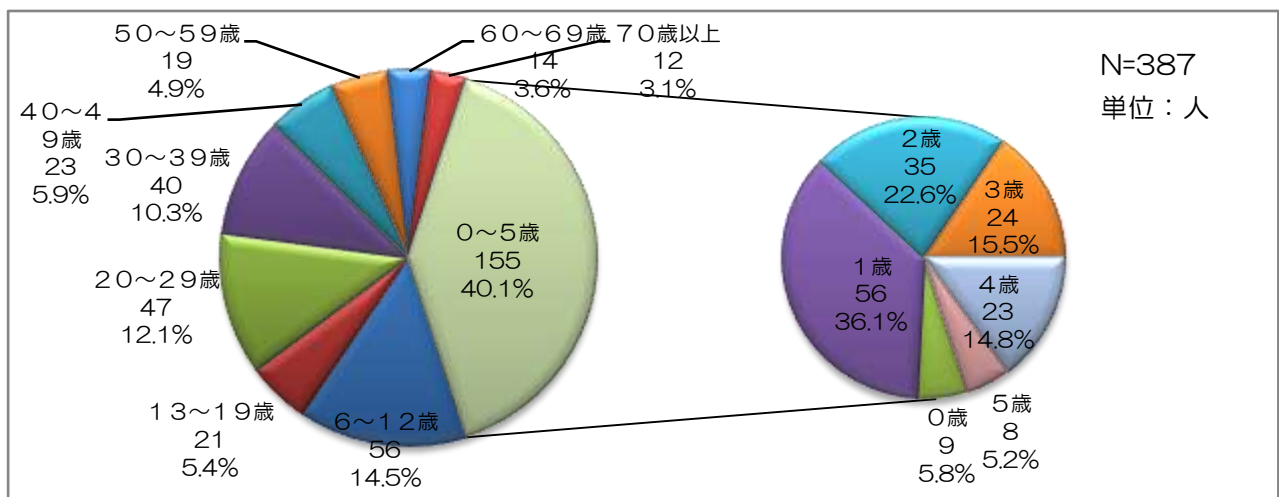


図2 年齢別救急搬送人員

¹ 東京都内の稲城市、島しょ部を除く地域です。東久留米市は平成22年4月から東京消防庁管内となりました。

² 平成22年分については速報値です。

3 初診時程度³別救急搬送人員

初診時程度では、98.2%が軽症で、中等症以上の事故では、「奥に入れすぎるなどとして出血等」で4件、「人や物（動物を含む。）にあたった」で2件、「途中で折れた、つままった」で1件発生しています（図3）。

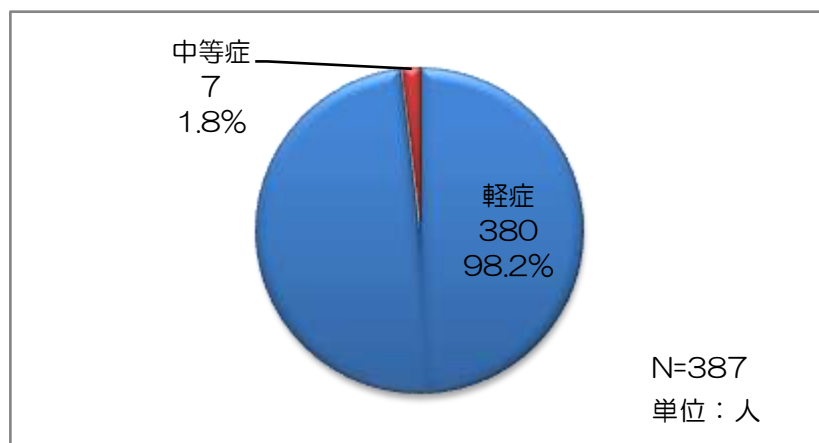


図3 初診時程度別救急搬送人員

4 要因別の救急搬送人員

(1) 年齢層別受傷要因別救急搬送人員

受傷要因別の救急搬送人員では、耳かき棒等を「奥に入れすぎるなどとして出血等」が160人（41.3%）と最も多く、次いで「人や物（動物を含む。）にあたった」が95件（24.5%）、「途中で折れた、つままった」41件（10.6%）が続きます。特異な例としては、耳かき棒等が耳の中で折れてしまい、取れなくなった事故や、乳幼児では、耳かき棒等を耳に入れたまま歩いて転倒したり、寝ころんだりして受傷する事故も発生しています（表1）。

表1 年齢層別要因別救急搬送人員

	奥に入れすぎるなどとして出血等	人や物（動物を含む。）にあたった	途中で折れた、つままった	転倒した、寝ころんだ	他人に押し込まれた	その他（不明含む。）	総計
0～5歳	78	18	7	19	5	28	155
6～12歳	22	21	5	1	1	6	56
13～19歳	6	8	1	2	1	3	21
20～29歳	17	16	10	-	1	3	47
30～39歳	10	17	3	1	5	4	40
40～49歳	8	8	4	1	1	1	23
50～59歳	3	5	6	2	-	3	19
60～69歳	8	-	4	-	-	2	14
70歳以上	8	2	1	-	-	1	12
総計	160 (41.3%)	95 (24.5%)	41 (10.6%)	26 (6.7%)	14 (3.6%)	51 (13.2%)	387 (100%)

³ 救急隊によって医療機関に搬送された際、初診の医師が以下の基準によって示した重症度分類のことです。（軽症）：軽易で入院の必要がないもの（中等症）：生命の危険はないが入院の必要があるもの

(2) 0～5歳における行為者別救急搬送人員詳細

最も事故が多く発生している0～5歳の年齢層での、行為者別救急搬送人員の詳細をみると、60.0%が自分で耳かきをしており、この中で最も多いのが1歳で44.0%、1～3歳までで83.8%を占めています。子供は大人のまねをして自分でやってみたがることもあることから、保護者等は子供の行動に十分に注意するとともに、子供の近くに耳かき棒等を放置しないことも大切です（図4）。

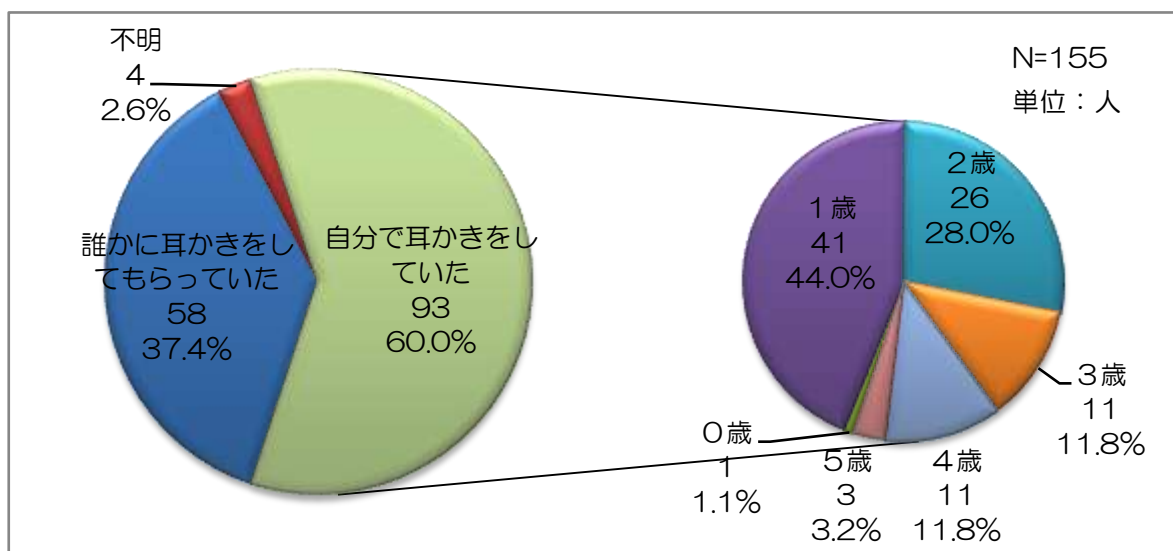


図4 0～5歳における行為者別の詳細

(3) 年齢層別受傷要因別詳細分類

「奥に入れすぎるなどして出血等」の160件をさらに詳細に区分すると、「奥の奥を突いた」が41.3%、「状況不明だが出血や痛みがあった」が34.4%、「力を入れすぎた」が19.4%となっています。子供の耳かきをしていたところ突然「子供が動いた」ことで受傷する事例も5.0%あります（図5）。

また、「奥に入れすぎるなどして出血等」の0～5歳の年齢層での詳細を行為者別にみると、自分で奥の奥を突いたことで受傷するのが25.6%と最も多くなっています（表2、図5）。

「人や物（動物を含む。）にあたる」の95件をさらに詳細に区分すると、自分が動くなどして「人の身体とぶつかった」が43.2%、次いで、「子供がぶつかってきた」が37.9%となっています。特に、30歳代では、「子供がぶつかってきた」が70.6%を占めています（表3）。

このことから、子供が周囲にいるときに耳かきをしていると、不意にぶつかったりして、けがをする危険性があるので、保護者等は注意が必要です。また、耳かき中にペットの猫や犬がぶつかってきたため、耳かき棒等を強く押しこんでしまう事故もあるため、ペットにも注意が必要です。

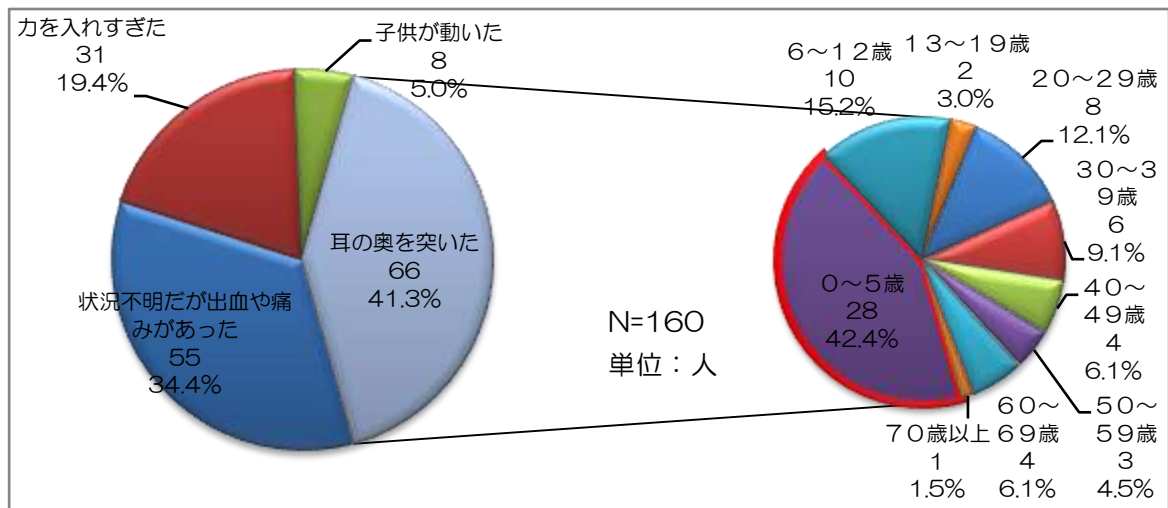


図5 「奥に入れすぎるなどして出血等」の詳細分類

表2 「奥に入れすぎるなどして出血等」の0～5歳の年齢層の詳細分類

	耳の奥を突いた	状況不明 ⁴ だが出血や痛みがあった	力を入れすぎた	子供が動いた	総計
自分で耳かきをしていた	20	15	9	-	44
誰かに耳かきをしてもらっていた	8	9	7	8	32
不明	-	1	1	-	2
総計	28 (35.9%)	25 (32.1%)	17 (21.8%)	8 (10.3%)	78 (100%)

表3 「人や物（動物を含む。）に当たった」の詳細

	人の身体とぶつかった ⁵	子供がぶつかってきた	動物がぶつかってきた	壁等にぶつかった	飛来物落下物に当たった	その他	総計
0～5歳	8	8	1	-	-	1	18
6～12歳	11	8	-	1	1	-	21
13～19歳	6	-	1	1	-	-	8
20～29歳	4	3	4	2	2	1	16
30～39歳	3	12	-	1	1	-	17
40～49歳	4	4	-	-	-	-	8
50～59歳	3	1	-	1	-	-	5
60～69歳	-	-	-	-	-	-	0
70歳以上	2	-	-	-	-	-	2
総計	41 (43.2%)	36 (37.9%)	6 (6.3%)	6 (6.3%)	4 (4.2%)	2 (2.1%)	95 100.0%

⁴ 例えば、気がついたら出血していたなど、どのようにして出血や痛みが生じたかは不明であるものです。

⁵ 自分が動くなどして人の身体とぶつかったものを集計しています。

5 主な救急事故事例

- (1) 平成18年10月、34歳女性が耳かきをしていたところ、子供が耳かきを叩き、耳を受傷したもの。
(平成18年10月、世田谷区、34歳女性、中等症)
- (2) 平成22年3月、23歳女性が自宅で耳かきをしていたところ、飼い犬が飛びかかってきたため、耳かき棒で右耳を突いて出血したもの。
(平成22年3月、世田谷区、23歳女性、軽症)
- (3) 平成22年7月、26歳女性が自宅で眠っていたところ、2歳の子供に、竹製の耳かき棒で、左耳を突かれたもの。
(平成22年7月、日野市、26歳女性、軽症)
- (4) 平成22年9月、母親が綿棒で6歳男児の耳掃除をしていたところ、綿棒の先が折れ、綿の部分が耳の中に残って取れなくなったもの。
(平成22年9月、大田区、6歳男児、軽症)
- (5) 平成22年11月、4歳男児が自宅で綿棒を耳に入れたまま転倒したため、綿棒が耳に刺さり出血したもの。
(平成22年11月、八王子市、4歳男児、軽症)
- (6) 平成22年12月、36歳女性が自宅で耳かきをしていたところ、急に子供がぶつかってきたため、左耳を受傷したもの。
(平成22年12月、文京区、36歳女性、軽症)

6 事故防止のポイント

これまでの救急搬送状況や事故事例から、以下のことに注意をしましょう。

- (1) 無理をして耳かき棒等を耳の奥まで入れない！
- (2) 耳かきをしている時は周囲の状況（特に子供、ペット等）に注意する！
- (3) 耳かき棒等を使用している人を押したりしない！
- (4) 整理整頓を心がけ、乳幼児の手の届く範囲に放置しない！
- (5) 乳幼児に耳かきをする時は、保護者は無理に一人でやろうとせず、他の家族との協力や、耳鼻咽喉科等の受診も考慮する。

